

第7回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第7回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成18年8月28日 午後3時00分から午後4時20分まで
3	会 場	堀金総合支所 301・302 会議室
4	出席者	白澤会長、浅川副会長、小口委員、尾台委員、唐澤委員、唐沢委員、 佐々木委員、武井委員、花村委員、林委員、平倉委員、藤岡委員、 牛山委員、加々美委員、小松委員
5	市側出席者	黒岩総務部長、大内行政改革推進室長、堀内同室係長、平林同室係長 高嶋財政担当係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	平成18年9月8日
協 議 事 項 等		
1	会議概要	
	(1) 開 会	(浅川副会長)
	(2) あいさつ	(白澤会長)
	(3) 議 事	
		(ア) 第6回委員会のまとめについて (イ) 答申案について
	(4) その他	
	(5) 閉 会	
2	審議概要	
	(ア) 第6回委員会のまとめについて	
		意見等なく確認
	(イ) 答申案について (事務局より説明)	
	(1) 市民との協働による市政の推進について	
		意見なく確認
	(2) 健全な財政基盤の確立について	
	委 員：	健全な財政基盤の確立という中で、財政ということについて、もっと広く議論 が出来なかったかと感じています。 また、市の予算が新聞や広報紙等で公表されますが、指標が違っていたりして、 市民にとっては分かりにくいものになっています。そこで、もっと工夫をして、 私たちに分かりやすいものにしていただきたいと思います。
	事務局：	健全な財政基盤の確立ということで絞り込みますと、やはり自主財源としての 市税ということになります。そこで、滞納額等をお示し、ご検討いただいたと

ということです。経費の縮減が可能なものはできる限り縮減に努めることは当然でありますので、入るもの、出るものの両面から健全な市政の運営につなげていきたいということでございます。

委員：これから市の収入が減り、色々な経費をカットしていかななくてはいけない中で、行政内部での経費削減の努力を市民に納得してもらえるようにするためには、行政としての具体的な取組を示す必要があります。

委員：健全な財政基盤の確立ということで、非常に大きなテーマになるわけですが、タイトルと答申内容とのバランスが良くないように感じます。財政効率化の面からも財政運営上の管理というように捉え、表現を変えた方が良いように思います。

会長：歳出の削減ということがこれからの財政の基本になっていくことを考えると、細かな取組とその積み重ねが大きなものになるということで、非常に大事になってきます。

委員：諮問事項に対して、委員会としては、収入に絞って検討したというような表現を入れてはどうですか。

事務局：経費削減については、答申の本文に「事務事業全般にわたり徹底した見直しを行うことにより経費の削減を図る」という記載がありますように、経費削減は当たり前のこととして常に行っていくべきことであり、健全な財政基盤の確立ということになりますと、削減だけでなく収入の確保にも目を向けていかなければなりません。

会長：この部分につきましては、答申の際、口頭で補足することとし、記載はこのままとします。

(3) スリムで柔軟な組織・人事体制の構築及び人事管理・給与の適正化について

委員：「スリムで柔軟な組織」に対応するのが「総合支所のあり方」になると思いますが、この総合支所をどうするかということは、安曇野市にとって大変大きな問題であることから、単独の項目で挙げるべきではなかったかと思います。

委員：「スリムで柔軟な組織」というところに「総合支所」という事項が入ってもおかしくないように思います。

委員：「OJTを推進し」とありますが、OJTは方法ですので、推進するものではなく、OJTでの人材育成が効果的に機能する環境を整備し、活用していくことが求められるものですから、そうした表現に改めた方が良いと思います。

委員：審議の中では、OJTだけでなくOFF-JTについても話題になりましたので、追加しておく必要があります。

委員：OFF-JTは研修などで一般的にやられると思いますが、上司が部下を育てていくという「OJT」はまだまだと思いましたので、提案させていただいたものです。

事務局：人材育成の基本となるものはOJTであり、OJTでカバーできない部分をOFF-JTで補完するという考え方でよろしいでしょうか。

(4) 業務の効率化と公共施設の効果的な利用について

委員：住民が行政に求めているものは、生命財産の保護、安全確保だと思いますので、「おわりに」の部分に「市民が幸福を実感」とありますが、「安心して」を加えていただきたいと思います。

委員：「経営資源としての「人」の重要性を認識し」とありますが、ここでは、組織、人、ボリュームが大きくなったことで、今までの教育体系を変えていく必要がある、専門部署によるキチンとした職員研修・教育というものが、人材育成には欠かせないという意味で申し上げていますので、そうした表現にしていきたいと思います。組織論というのは、ボリュームによってガラッと変わってしまいますので。

委員：「第6回のまとめ」にも「合併による組織の拡大に伴ない」という表現がありますので、そうした表現にしていただければと思います。

委員：アウトソーシングにおける安全確保についてですが、文章はこのままで良いのですが、実施に移す段階では、責任の所在、役割分野というものを明確にしておかないと、大きな社会問題になってしまいます。委託すれば「企業に全部お任せ」ということではなく、どこかで歯止めを掛けておく必要があります。

会長：文章にも「経済性だけに偏ることなく」とありますように、安心・安全、効率性を考えていく必要がありますし、アウトソーシング先を短期間で見直ししていくことも対策として必要です。

指定管理者制度の導入にあたっては、どのようにしているのでしょうか。

副会長：指定管理者制度導入にあつたての協定書審議に同席する機会がありましたが、協定書には、「何をやるか」、「行政と業者がどのように責任を負うか」、「チェックはどのように行うか」、或いは報告の義務づけなどが、細かに盛り込まれています。

委員：この答申をもとに行財政改革大綱、行政経営改革プランを策定するものと思いますが、できるだけ早い時期に、できるだけシンプルな実施計画にして実施に移していただきたいと思います。

会長：本日いただいた意見をもとに手直しを行い、答申したいと思います。

副会長：長い間のご審議ご苦労様でした。限られた時間の中での審議でしたが、皆さんお英知が込められた答申でございますので、今後、十分活かされることを期待するものです。

どうもご苦労様でございました。